

《創刊号》

公益大ニュース

東北公益文科大学広報誌

2018.9

02_ [公益大の教育の特色]

“クォーター制と105分授業”

公益学部長 神田 直弥



03_ 公益大の国際化

04-05_ 研究活動紹介

[海外研究発表] 講師 樋口 恵佳

[助成研究] 講師 松尾 慎太郎

06-07_ 社会貢献活動(学生の取組み)

災害支援活動 チームmoreE

「何日10DAYS」カードゲームとゲームアプリの開発

08_ 学生による社会実験プロジェクト

地域公共交通利用促進プロジェクト

公益大の教育の特色

“クォーター制と105分授業”



公益学部長 神田 直弥

クォーター制で学生の成長を後押し

本学では、クォーター制を2015年度より導入し、セメスター制とクォーター制を併用しています。

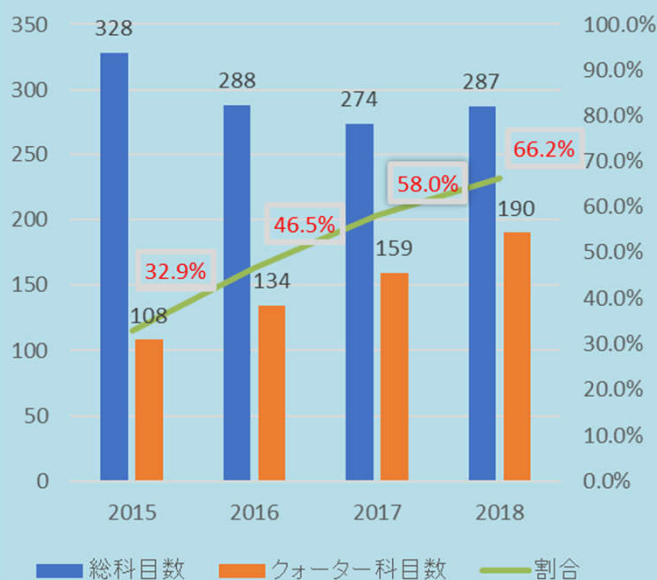
クォーター制の1学期は7週間で、同一の授業を週2回実施します。現在、クォーター制で行われている科目は70%程度です。

(クォーター制のメリット)

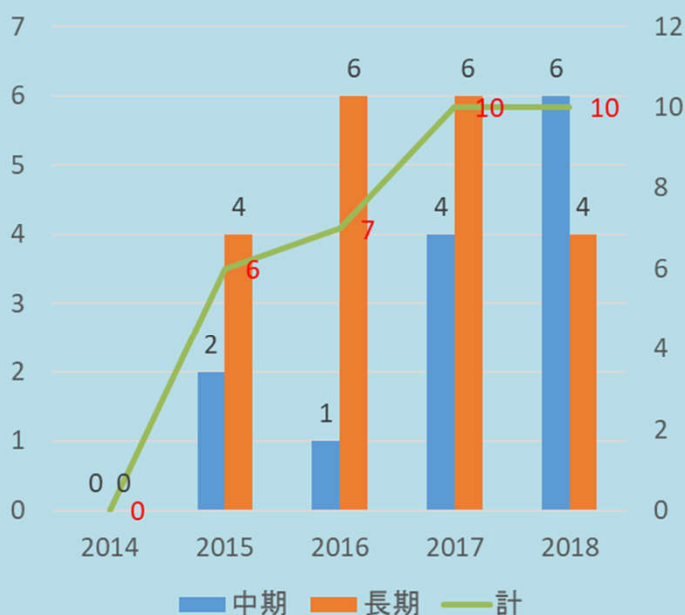
- クォーター制を導入することで、留学や長期のインターンシップを行いやすくなりました。
- クォーター制であれば、第1クォーターで授業を受け、第2クォーターで留学をするということが可能。
- 長期インターンシップも、2ヶ月程度継続して実習に行くことが可能。
- 現在は、10名の学生が6月～7月の第2クォーターの時期を中心に中長期留学を行っています。

学生は海外や地域に出ることで経験を積み、大きく成長します。クォーター制はこうした取り組みを後押しする制度として機能しています。

クォーター科目数推移



中・長期海外留学推移



※中期：1か月以上～1クォーター以内の留学
 ※長期：1セメスターまたは2セメスターにわたる留学

105分授業で留学や実習期間の確保

本学では、2018年度より授業時間を105分にしました。

目的は2つ。

1つはアクティブ・ラーニングの推進。教員が一方向的に話すのではなく、グループワークやプレゼンテーション等、学生が主体的に取り組むスタイルの授業を増やします。105分授業を導入することで、じっくりと討論をする時間を設けたり、問題演習の時間を豊富に設定したりすることが可能になりました。

2つ目は実習時間の確保。105分授業の導入により授業が14回で終わります。結果として休業期間を若干増やすことができ、留学や実習期間の確保が容易になりました。



年	月	海外連携協定締結大学
2010	5	東北林業大学 (中国)
2015	3	河南師範大学 (中国)
	4	クレイトン大学 (米国)
2016	7	世新大学 (台湾)
2017	3	オハイオウェズリアン大学 (米国)
	7	上海交通大学 (中国)
2018	6	セントラルコネチカット州立大学 (米国)
	8	イルクーツク総合大学 (ロシア)



東北林業大学(中国)



世新大学(台湾)



オハイオウェズリアン大学(米国)



河南師範大学(中国)



クレイトン大学(米国)



上海交通大学(中国)



セントラルコネチカット州立大学(米国)

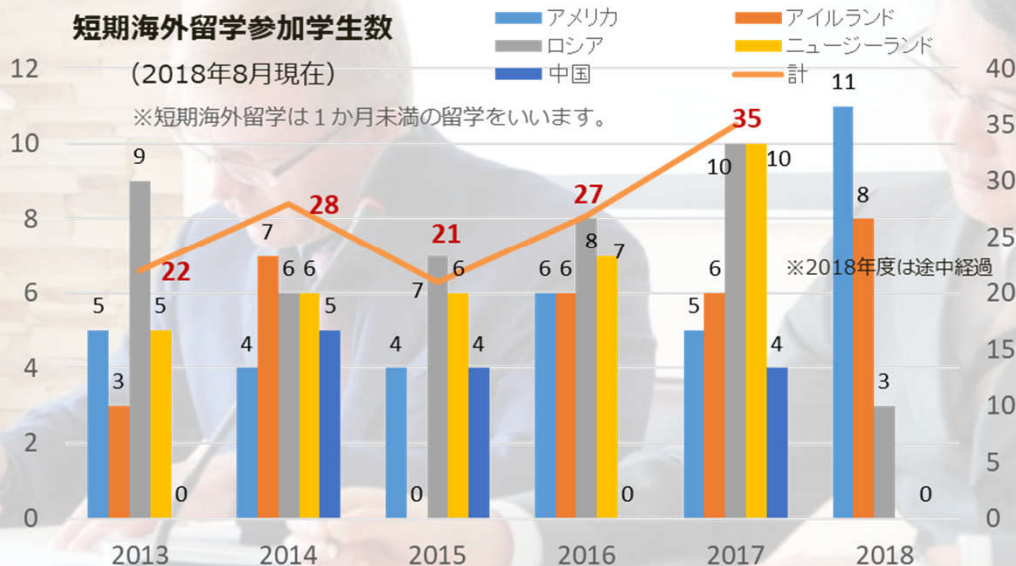


イルクーツク総合大学(ロシア)

公益大の国際化

東北公益文科大学は、吉村プランにおいて、21世紀の国際社会が求める人材の育成のため「国際化」を重点テーマに掲げています。

短期海外留学参加学生数



※2018年度からアメリカは、クレイトン大学とセントラルコネチカット州立大学の2校で実施

国際化の展開 国際交流センター長・教授 松田 憲

山形県内の留学生数は2017年度で265人と、東北6県で最下位です。そこで、東北公益文科大学でも海外の協定校をさらに増やし、世界中から留学生を受け入れ、他の教育機関と合わせて県内で300名を目指したいと考えています。

留学生や外国人研究者を増加させるためには、受け入れ側の整備としてハード、ソフト両面を整備する必要があります。

外国人留学生のための進学説明会に参加すると、入学希望者のほとんどが、住居、授業料、奨学金、日本語教育についての質問が多いと聞いています。

将来有望な留学生を受け入れることは、経済活性化においても非常に有効であると思っています。



国際会議ポスターセッション報告

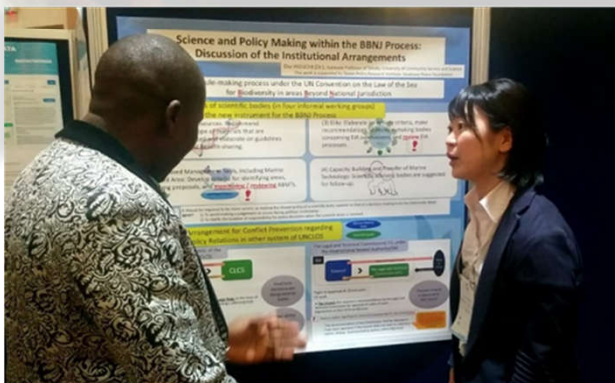


講師 樋口 恵佳

東北大学大学院法学研究科
博士後期課程修了。
博士(法学)
笹川平和財団海洋政策研究所
研究員を経て、2017年9月よ
り現職

6月24日～29日に、生物多様性保護協会の海洋セクションが主催する、第5回国際海洋保護会議 (5th International Marine Conservation Congress) にて、ポスターセッションでの報告をしてきました。開催地はマレーシアのクチンというリゾート都市で、ネコの町としても有名です。

報告内容は、現在進行中の、国家管轄権外区域における海洋生物多様性保護と持続可能な利用のための法的文書作成のための国際交渉に関連するもので、科学的機関と意思決定機関との関係を論じたものです。過去の事例を参照しながら、現在提案されている内容を分析しました。

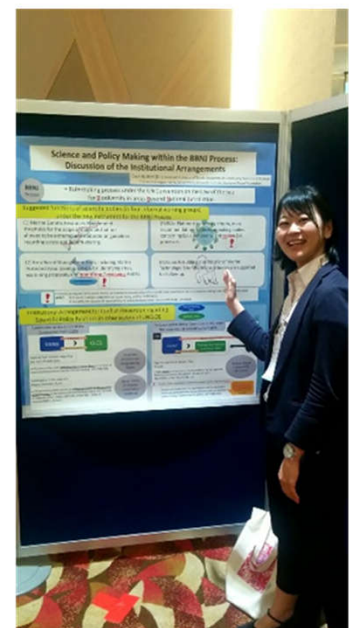


ポスター発表は実は(日本語・英語含めて)初めての経験で、説明しやすい内容になるよう何度も作り直しました。

実際の報告では、政府で条約の提案を実際に作成しているという研究者や、国連の組織で交渉のプロセスに関わっていたスタッフ、政府の中で科学技術と政策決定の関係に関するガイドラインを作成した責任者、中国の政府系機関で働く海洋政策の研究者等、多くの専門家と意見を交わすことができました。

自分の報告に関連する部分だけでなく、他の分野の研究者の報告を聴講することでも、非常に重要かつ幅広い見識を得ることが出来たと思います。自分の研究が前提としている他分野の研究成果が、どのようにして得られているのか、目の前で専門家に説明してもらえるというのは、なかなかない経験です。

今回の発表に参加できたことで、一人の研究者として世界中の研究者と対面で交流することの意義を改めて感じました。これからも研究を重ね、来年以降も定期的に国際学会での報告をしたいと思います。



若手・女性研究者奨励金採択（日本私立学校振興・共済事業団）

採択研究課題：
「わが国における財務諸表監査制度の
社会的意義と経済的価値」



講師 松尾 慎太郎

課題設定の背景

近年、わが国において、財務報告制度の信頼を揺るがす会計不正が発生しました。そのような会計不正が起こった際、企業が作成した財務諸表の信頼性に関して、独立の第三者の立場から保証を付与している監査人は厳しい批判にさらされました。

改善策として、企業との馴れ合いを防止し、監査人が新しい視点で財務諸表監査に臨めるよう、監査事務所の強制的交代制度の議論がなされるようになりました。つまり、監査人の独立性の強化と職業的懐疑心の保持・発揮が要請されているのです。しかし、監査契約の締結が財務諸表作成者である経営者で行われ、経営者から監査報酬が支払われているという状況下では、監査事務所の強制的交代制度を実施したとしても、究極的な意味での監査人の独立性に関しては疑念を抱かれるでしょうし、職業的懐疑心の保持・発揮に関しても、報酬を支払っている相手を疑ってかかるということが可能なのか、また、そのような相手とそもそも監査契約を締結するのか、という問題が生じます。

従来は監査論の議論では、法規制が存在せずとも、経営者は自主的に財務諸表監査というサービスを購入するインセンティブを有しており、財務諸表監査は自然発生的に生成されるものであるとして説明がなされてきました。そこには、経営者は適正な財務報告を行っているということが暗黙的に仮定されており、「経営者と監査人の間に潜在的な利害の対立は存在していない」という監査公準が反映されています。しかし、近年の相次ぐ会計不正からも分かるように、この監査公準にもとづいた財務諸表監査についての理論構築は限界を有しています。そこで、改めて、財務諸表監査制度の社会的意義という視点から、財務諸表監査の経済的価値を再確認する必要性が生じているとの認識のもと、上記のような研究課題を設定いたしました。

関西学院大学大学院商学研究科博士
後期課程単位取得満期退学。

博士(商学)

2016年4月より東北公益文科大学
助教。2018年4月より現職

若手研究者奨励金贈呈式

5月22日、東京ガーデンパレスで行われた贈呈式に出席しました。

贈呈式では「本研究助成の目的を踏まえ、特色ある多様な研究を支援し、特に新たな価値を創造するような挑戦的な研究や独創的な研究について積極的な支援を図った」と選考経過報告がありました。普段交流する機会のない理系分野の先生方が多かったのですが、研究成果を通じて社会に貢献したいという志は同じで、切磋琢磨し合える仲間との出会いもあり、大変貴重な経験でした。



発表の様子

9月3日～6日、「21世紀における会計理論の再構築」を統一論テーマとして開催されました。日本会計研究学会第77回大会（於：神奈川大学）において、「監査判断と法的思考」というテーマで、財務諸表監査制度の社会的意義の観点をふまえた監査意見形成プロセスに関する研究報告を行ってまいりました。質疑応答では、多くを頂戴しました。統一論テーマにもあるように、会計理論について再構築が迫られています。院生時代からご指導いただいている先生から激励を頂いて、今後、より一層研究に努めていくことを決意しました。

学会発表（日本会計研究学会）

チーム moreE

(チームモアイ)

学生による災害支援活動

宮城県南三陸町にあるのぞみ福祉作業所で製作されたモアイグッズを販売。売り上げの8割をのぞみ福祉作業所へ、残りの2割を被災地へ支援金として送る活動をしている。

2017年度

- ・前年の活動のほか、青年会議所主催防災イベント、公翔祭、地域解決フォーラム、灯籠の絵を描く会での販売
- ・九州北部豪雨被災地の福岡県朝倉市にある障害福祉サービス事業所清流学園へ支援金を寄付。その際に、福岡・熊本で現地視察も行う。

※平成29年7月九州北部豪雨

7月5日から6日にかけて、対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込んだ影響等により、線状降水帯が形成・維持され、同じ場所に猛烈な雨を継続して降らせたことから、九州北部地方で記録的な大雨となった。

(※出典：気象庁)

2016年度

- ・学内の売店やキャンドルナイト、キャンドルナイトワークショップ、酒田市内のコミュニティセンターでの行事などで販売
- ・熊本地震被災地、熊本県阿蘇郡西原村の障害福祉サービス事業所にしはらたんぼハウスへ支援金を寄付

※熊本地震

平成28年4月14日21時26分頃に熊本県熊本地方の震源の深さ11kmマグニチュード6.5の地震が発生し、最大震度7を記録した。さらに、約28時間後の4月16日1時25分頃に同地方で震源の深さ12kmマグニチュード7.3の地震が発生し、再度震度7を記録した。気象庁は、熊本県を中心とする一帯の地震活動を「平成28年(2016年)熊本地震」と命名した。

(※出典：東京都防災ホームページ)

何かしたい！チーム moreEの立上げ

2014～15年度

競争型課題解決演習にて被災地見学。宮城県南三陸町のぞみ福祉作業所訪問

これまでの主な活動

取り組み・抱負

チームmoreEの活動も3年目に入りました。

1～2年目は、商品販売が主な活動でした。3年目の今年は商品販売だけではなく、被災地の訪問で感じてきたことを人々に伝えることを目標に、ニュースターなどで手に取って読めるようにしたり、被災地を訪れた際の映像を流したりなど、新しい取り組みを行っています。

多くの人に被災地の現状を知ってもらうため、自分たちがまず知り、学ぶ。被災地を訪問して終わるのではなく、記録に残し発信していきます。また、なぜこの活動をするのかなど、チーム内で目的の共有を行いながら取り組んでいきます。

Facebook: <https://www.facebook.com/teammoreE/>

Twitter: https://twitter.com/more_E_

2018年度の活動

メンバー： 佐藤 真梨 難波 万琴 後藤 千花 田名部 要
本間 惇平 橋本 雄貴 横山 絢大 遠藤 未来 嶋田 哲太

月日	活動内容
5月12日	日向地区Niconicoマルシェでの販売
7月21日	鶴岡市 山王ナイトバザールでの販売
7月22日	公益大オープンキャンパスでの販売
7月28日	鶴岡市 南銀座夏祭りでの販売
7月29日	日向地区Niconicoマルシェでの販売
9月19・20日	のぞみ福祉作業所訪問
10月20・21日	公翔祭での販売



Niconicoマルシェでの販売

なぜ、『チーム moreE』？

もっと(more)と『緑・援助・笑顔』の頭文字「え」を「E」として、この3つを増やしてという意味があります。

また、南三陸町には南米の国チリから友好のシンボルとして送られたイースター島のモアイ像があります。モアイにはイースター島のラパヌイ語で「未来に生きる」という意味があり、南三陸町の人々を遠い未来まで勇気づけ、見守り続けるだろうと言われています。

私たちは、この友好のシンボルであるモアイ像にも思いを重ね、この名前にしました。

学生による国際難民支援活動（国連機関との連携）

国連UNHCR協会 アイデア・コンペ ベストクリエイティブ賞受賞🏆

(URL : <https://www.japanforunhcr.org/archives/12688/>)

難民支援カードゲームとゲームアプリの開発

プロジェクト代表 佐藤 巴瑠貴

①企画の目的

- ゲームを通してUNHCRの活動を認知してもらうことや募金の促進につなげる。また、支援層の拡大。
- ゲームを通じて難民生活を疑似体験することで、難民の立場・現状について振り返り、プレイヤーが難民支援をする動機・興味を産出する。



他大学生とのワークショップ

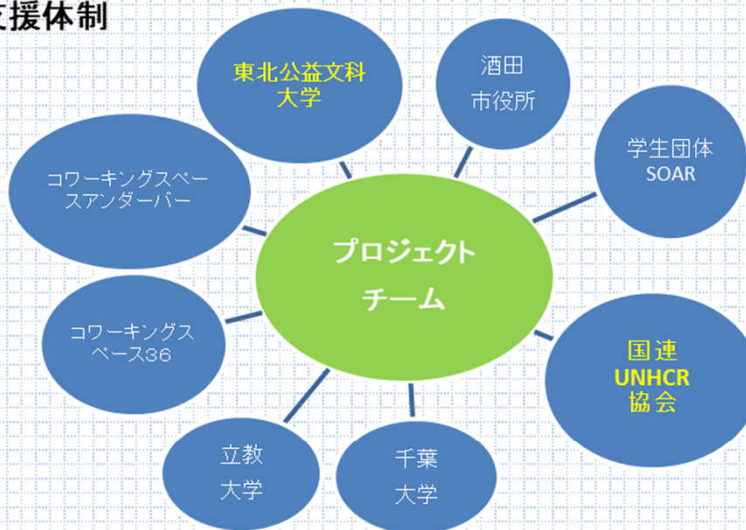
②ゲーム概要

- 難民の実情を簡易的に知ることができる、チーム(ファミリー)戦で行うミニゲーム。
- ファミリー同士で競い合い、最終日に生き残っていた、もしくは物資の多いチームの勝利。駆け引きも必要となってくるため、頭脳心理ゲームでもある。

③ゲーム内容

- プレイ人数：4～8人
- 対象：小学生から大人まで
- 生死を目の前にした環境の疑似体験ができ、頭脳心理戦によるスリルとともに、支援物資の大切さを体感できるような臨場感を味わうことができる。
- また、現実のリサーチを反映しているため、ゲームをしながら難民の現状を知り、興味を持つようになることが期待される。（釣りゲームをしていたら、魚等に興味を持ち始めたり、知識がつくような感覚）

④開発・支援体制



ゲームに使用するイラスト①



ゲームに使用するイラスト②

⑤メンバー

プロジェクト代表：佐藤 巴瑠貴
鈴木 康平

広報担当：YUURI 三富 萌
情野 千帆

営業担当：RIRIKO
前田 小代莉
森谷 樹平

イラスト：湯本 巴瑠季
文書作成：池田 泰基

＜他大学メンバー＞
岡野 あい（立教大学）
清水 雅博（千葉大学）

顧問：平尾 清 特任教授

学生による社会実験

【プロジェクト型応用演習】

地域公共交通利用促進プロジェクト

課題設定

公共交通は人口減少の影響により利用者は減少傾向にあります。本プロジェクトは今年で2年目、昨年はバス停付近の飲食店を紹介する情報誌を作成しました。今年はその情報誌を実際に配布し、バス利用が増加するか確認する社会実験を行いました。

取り組み

配付対象を本学学生に理由は4つ。①日常的なバス利用者が少ない ②身近にバス停（大学前）がある ③バス利用の起点を「大学前」バス停と定めることで、乗り換えの必要性がバス利用に及ぼす影響を検討可能 ④学生専用の回数券があり乗車状況の把握が容易

情報誌タイトルは「バスで行くおいしい酒田」。バス停を考慮した5つのエリアの飲食店情報を掲載。エリアごとに店舗とバス停の位置を記載したマップ、大学から各エリアバス停までのアクセスを掲載。他、乗り方や時刻表、クーポン券を掲載。後日クーポン券の回収状況により、上記の③を検証できるようにしました。

社会実験の期間は2018年6月の1か月間。期間中に学生が利用した回数券の数を集計し、実験前の4月～5月の回収数や、昨年度の同時期と比較。実験後には、クーポン協力店舗にクーポン券利用状況について聞き取り調査を行い、学生には100名に利用状況のアンケート調査を実施しました。

メンバー

高橋花紀、石森大誠、小松享平、金寛人、花田浩旗、古谷拓斗、三浦瑠唯、山澤颯、山田寛大、青柳辰郎、菊地京香、小林亮太、齋田拓磨、佐々木詩織、大道寺美里、照井大樹、羽川大希、結城大貴、吉田桐麻

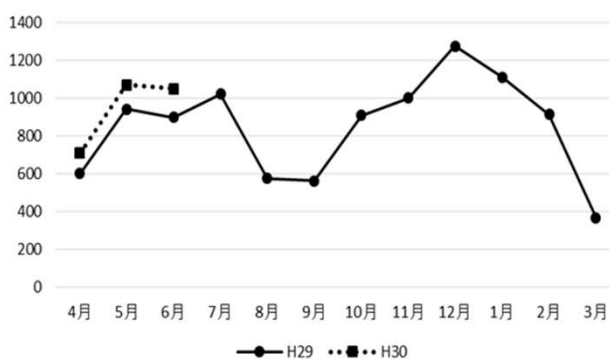


(配布した情報誌)

結果

本学学生のバス乗車状況について、昨年度と今年度の月別の利用人数（回数券利用数）を図1に示します。今年度は昨年度に比べて4月から多い状況です。昨年度、今年度ともに4月の利用人数を100として指数で表すと、6月の利用人数は、昨年度の149に対して今年度は148で、情報誌配布による増加は見られません。店舗への確認では、クーポン券の利用はありませんでした。ただし、学生への事後アンケートでは、約12%が情報誌によってバス利用が増えたと回答していました。バス利用が増えなかった理由として多数を占めたのは「他の移動手段（車）がある」でした。

(図1) 利用人数の推移



考察

事後アンケートでは、情報誌に関心を持ったという回答は多くありましたが、他の移動手段を持つ人に対し、バスを利用したいと思わせるほどの魅力はなかったようです。自動車が当たり前の状況で、バスを利用することは難しいことが改めてわかりました。今回の結果を受けてメンバー全員で検討した結果、社会実験のPR不足、クーポンの魅力向上、情報誌配布対象者の変更等が課題となりました。

担当教員コメント 教授 神田 直弥

メンバーの大半がバスに乗ったことが無い状況からスタートしました。この演習では、社会実験に加えて、他地域のバス利用促進策の調査、バス交通ファンクラブへの参加を行いました。演習を通してバスへの関心を深めたのではないかと考えています。今後も継続して利用促進に向けた取り組みを実施します。



編集後記

本学の教育・研究・社会貢献活動を広く学外に知らせるツールとして広報誌「公益大ニュース」を創刊しました。教職員による広報誌編集チームを編成し、編集に取り組みました。ご協力いただいた教職員、学生の皆様に感謝申し上げます。今後とも内容の充実に努めてまいります。

広報誌『公益大ニュース』 創刊号 2018.9

E-mail : koho@koeki-u.ac.jp
〒998-8580 酒田市飯森山三丁目5番地の1
TEL:0234-41-1111 FAX:0234-41-1133
<http://www.koeki-u.ac.jp/>

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science